



電子黒板を使って自分の考えを説明する

効果的な資料提示で 話し合い活動を充実

ICT活用で思考力・表現力を育成

広島県三原市立幸崎中学校（屋敷光校長）では、学習集団の育成を通じて、思考力・表現力を高める授業づくりに取り組んでいる。ICTを活用した効果的な資料提示や、復習時間の短縮などによって話し合い活動を充実させ、思考力・表現力の育成を図る同校の取組みを紹介する。

◆電子黒板で、素早く、わかりやすく◆

「江華島事件のあと、日本と朝鮮が結んだ不平等条約をなんといいですか」

山藤真貴子教諭が電子黒板に表示された設問を読み上げると、生徒たちは一斉に手を挙げた。

「日朝修交条規です」

「正解！」

画面上の空欄に正解が示され、すぐに次の問題が表示される。前時の学習内容の要点を確認する問題は全部で6問。次々に示される穴埋め問題に生徒たちはテンポよく答え、復習を終えるまでにかかった時間はわずか3分程度だった。三原市立幸崎中学校（屋敷光校長）では、『「思考力・表現力」を高める授業の創造～学習集団の育成を通じて』と題した研究に取り組んでいる。この日は研究主任の山藤教諭が社会科の単元「自由民権運動と国会開設」の授業を行った。

復習後、山藤教諭は、西郷隆盛と板垣退助に関する資料を電子黒板に表示。明治政府を去った二人が、西南戦争と自由民権運動という正反対の二つの運動を主導し、なぜ一方が敗北し、もう一方は国民的な支持を得たのか、その違いはどこにあったのかを子どもたちに問いかけた。生徒たちは電子黒板で山藤教諭が次々に示す、「田原坂激戦の絵」「オッペケペー節」「自由のメンコ」などの西南戦争や自由民権運動についての資料をもとに小グループに分かれて、

ディスカッション。資料のうち「自由」と書かれたメンコに着目した男子生徒は、「庶民の遊びであるメンコにまで自由という文字があるのは、その概念が広がっていた証拠ではないか」と指摘。女子生徒も西南戦争における両軍の武器を比較し、「明治政府にはお金もあり、近代的な武器をそろえることができたのではないか」とそれぞれの考えを電子黒板を使って発表した。



小グループに分かれての話し合い活動

◆効率化にとどまらないICT活用を◆

「ICTで視覚的に示すことで課題が素早く共有でき、生徒の理解も深まります。時間が短縮できるので、その分話し合いの時間を長くすることも可能です」

ICTの利点について、山藤教諭はこう述べる。幸崎中で使われているICT機器は、電子黒板、プロジェクター、実物投影機など。今年度からパナソニック教育財団の特別研究指定を受け、電子黒板を増設。1学級に1台の割合で配備されている。現在は「教師がわかりやすく説明するための活用が多いが、生徒に発表させる方法をもっと工夫したり、ICTを使って思考を深めたりする活用をしていきたい」（山藤教諭）とのこと。効率化にとどまらないICT活用法が今後の実践のカギといえそうだ。

（編集部）